

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

1 モニタリング状況（参考数値）

集計期間：令和3年2月8日（月）～2月14日（日）

	指標	数値	前週	目安基準
(1)	直近1週間の新規陽性者数	172人	242人	—
(2)	直近1週間の人口10万人当たりの累積新規陽性者数 (陽性者数/(153万人/10万人))	11.24人	15.82人	2.5人未満 (※1)
(3)	週当たりの陽性者増加比 (当該週の陽性者数/前週の陽性者数)	0.71	0.57	<1(※2)
(4)	直近1週間の感染経路不明者の割合 (感染経路不明者数/陽性者数)	45%	40%	50%未満 (※3)
(5)	直近1週間の陽性率(※4) (陽性者数/検査実施人数)	6.02%	6.04%	—
(6)	入院中の患者数(※5) (疑似症患者を含む)	143人	153人	感染症患者受入病床 294床
(7)	入院中の患者のうち重症者数(※5) (疑似症患者を含む)	8人	15人	重症病床 30床
(8)	全療養者数(※5)(入院中、宿泊療養及び自宅療養者合計(疑似症患者は含まない))	562人	952人	—

これらの数値は、速報値として公表するものです。

※1 神奈川県警戒アラート指標の基準を準用

※2 新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言（新型コロナウイルス感染症対策専門家会議「緊急事態措置の解除の考え方」）より引用

※3 神奈川県の再警戒モニタリング指標の基準を準用
(再警戒基準：新規陽性者数が10人以上の時、50%以上)

※4 健康安全研究所及び民間検査機関による検査実績から算出（本市発表外陽性者も含む）

※5 2月14日(日)現在の報告数（前週分は、2月7日(日)現在の報告数）

2 評価

令和3年2月8日（月）～2月14日（日）の川崎市内におけるモニタリング状況は、
(1) 新規陽性者数は、1月4日～1月10日の1123人をピークに減少し、前々週425人、前週242人、そして今週は172人と5週連続で減少しました。

(2) 直近1週間の人口10万人あたりの累積新規陽性者数も、同じく1月4日～1月

10日の73.40人をピークに、前々週27.78人、前週15.82人、今週11.24人と5週連続で減少しました。目安基準（神奈川警戒アラート）は2.5人未満ですので、これに対しては依然高値ですが、次第に目安基準値に近づいてきています。

(3) 週当たりの陽性者増加比は、同じく1月4日～1月10日の2.08をピークに、前々週0.71、前週0.57と4週連続で減少していましたが、今週は0.71と若干上昇がみられました。目安基準1以下は、下回ったままとなっています。

(4) 直近1週間の感染経路不明者の割合は、前々週40%、前週40%と低下から横ばい状態となり、今週は45%と若干上昇しました。目安基準50%未満は下回ったままとなっています。

(5) 直近1週間の検査陽性率は、前々週8.76%、前週6.04%と低下し、今週は6.02%と横ばい状態となっています。

(6) 入院中の患者数は、前々々週182人がピークで、前々週は158人と減少し、前週は153人、今週は143人と緩やかにですが減少が続いています。

(7) 入院患者のうち重症者数は、1月4日～1月10日の31人をピークとして、その後22人、23人、21人と緩やかな減少でしたが、前週は15人、今週は8人と明らかな減少となりました。

(8) 全療養者数（入院中、宿泊療養及び自宅療養者合計）は前々々週が2901人とピークでしたが、前々週2399人、前週は952人、今週は562人と減少が続いています。

(1) 全体の新規感染者数、(2) 直近1週間の人口10万人当たりの累積新規陽性者数は5週連続して、(3) 週当たりの陽性者増加比は4週連続して減少して若干の増加、(4) 直近1週間の感染経路不明者の割合は横ばい状態から若干の増加、(5) 直近1週間の検査陽性率は5週続けて減少の後、横ばい状態となりました。

増加が続いていた(6) 入院中の患者数、(7) 重症患者数、(8) 全療養者数については、前週からすべて減少となりました。

年末から年始にかけて増加傾向にあった川崎市内の新型コロナウイルス感染者の状況は、お正月が明けた連休過ぎあたりから減少が始まり、指標(3)(4)に若干の増加がみられましたが、新規陽性者数は減少が続いています。また入院患者数、その中の重症者数、全療養患者数にも、全体の感染者数減少の効果が現れ、いずれも前週からすべて減少となりました。市内における感染症患者受け入れ病床数は、前週から増床(279床→294床)となり、市内の医療体制にはやや落ち着きが出てきています。

これらの減少傾向は、まさに多くの市民の方々のご理解とご協力の賜物です。しかし、ここで安心が油断となり、気が緩んでしまうと12月下旬の状態に戻ってしまう可能性があります。さらに感染者数が落ち着き、重症患者発生が少なくなり、一般の医療に心配がなくなり、続いて経済状況が回復できるためには、もう少々重ねてのご協力の継続をよろしくお願いいたします。

肝心なことは変わらず、引き続き三密を避ける、適切な距離が保てないなどの時はマスクをつける、手洗い・手指の消毒をこまめにするなど、日常生活においての基本的な、そして重要な注意です。川崎市内における皆様のこれらの何気ない注意が感染のリスク

を減らし、その結果として入院者数・重症者数・死亡者数を減らすという、明らかな効果が連続して現われています。どちらかへお出かけになるときには、やはり混雑する場所や時間帯はできるだけ避けて、家族単位などの少人数でゆっくりと、しかし長時間にわたることなく過ごされることなどについても、重ねてよろしくお願いいたします。

なお、市内のインフルエンザ定点から毎週報告を頂いているインフルエンザの発生動向につきましては、2021年第5週（2月1日～2月7日）の報告は1で、2021年第1週～第5週の市内のインフルエンザ報告数は合計4に留まっており、昨年からそのまま極めて少ない状況が続いています。なお、昨年2020年第1～5週の市内におけるインフルエンザ報告数は3,446でした。